

おおぞみ

大宜味

「健康長寿の
いきいき輝く
文化の村」

広報 No.217

KOHO OGIMI 2013年4月号



一期一会 ～大切な出会いをありがとう～

写真提供: 写文工房WORKS 撮影日時: 平成25年3月10日(日)

平成 25 年度施政方針

健康いきいき輝く文化の村を目指して

平成25年第2回大宜味村議会定例会が3月7日に開会し、初日に島袋義久村長が施政方針演説を行いました。以下、施政方針の全文を掲載します。



はじめに

平成25年第2回大宜味村議会定例会の開会にあたり、大宜味村第四次総合計画後期基本計画の中間年にあたる平成25年度の村政運営方針及び予算の概要につきまして、所信の一端を申し述べます。大変厳しい財政状況にありますが、村民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜り、「健康長寿のいきいき輝く文化の村」実現に邁進していきます。

東日本大震災から2年が経過しようとしています。多くの方が犠牲になり、お亡くなりなされた方、未だ行方不明の方、住み慣れた自宅に帰ることができず仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされ、完全復興にはまだ多くの課題があり、長い時間が必要とされています。私たちの誇る大先輩宮城新昌氏と宮城一族を讃える顕彰碑も津波被害により、真二つに壊れました。この再建へ向け取り組んでいる最中、石巻市長や関係者の話から氏の功績が「人材を以て資源と為す」の村是を再確認することができました。地震に限らず、昨年は台風による大きな被害がありました。

本村においても、台風15号・16号・17号と連続して襲来し、多大な被害をもたらしました。台風15号に伴う大雨が根路銘の斜面で大規模の土砂崩れ、村道大宜味線が崩壊するなど、大きな爪痕を残し、村民生活に大きな影響を与えました。土砂除去や監視において沖繩総合事務局の絶大な支援があり、村民生活への影響を和らげることができました。この台風被害支援を機に沖繩総合事務局長と災害に関する協定を県内で最初の締結を行いました。

「安心・安全な村づくり」は生活の基盤であり、今後起こりえる様々な災害に対し、あらゆる事態を想定しながら、村民の生命・財産を守るため、万全を期していきます。

一方、昨年は、明るいニューースも多くありました。旧庁舎トーハキ祝いは、村内外から多くの人の参加を得てすることができました。台風15号の風圧を和らげる八画の平面形状を取り入れ、大宜味大工の技術が詰まった、モダンな建物は、大正時代のコンクリート建築物として県唯一のもので、平成9年に県の有形文化財（建造物）として指定されました。



村へ企業進出がこれまで以上に活発に展開されました。塩屋の字有地に堆肥工場が操業を開始し、結の浜の企業支援貸工場への3社の進出、ゴルフ場へのソーラーパネル工場の進出決定と続き、雇用効果等が期待でき、過疎対策として大きな効果が期待されるものです。この流れを大切に、今年度も企業誘致や雇用開発等に鋭意努力していきます。

大宜味産の「和そば」が県内では認知され、一大産業化へ期待を膨らませるものです。喜如嘉小学校の文部科学大臣賞受賞や大宜味中学校ソフトテニス部の活躍は村民の誇りであり、大きな喜びであります。村民の活躍、嬉しい話題は、

村を元気づける大きな要因であり、村政の主役は村民である事を改めて肝に銘じ、「健康長寿のいきいき輝く文化の村」実現の源になるものです。

村政を取り巻く情勢

私たち村民は、平和を常に希求してきました。私も、政治の原点は平和であるという考えを持ち続けています。それは、逆行する形で、北朝鮮のミサイル発射や地下核実験、竹島問題及び尖閣諸島問題と緊張状態にあります。経済的にも日韓・日中関係の悪化により、日系商品の不買運動や沖繩への観光客の多数のキャンセルがあります。又県内では、オスプレイ配備について、大宜味村議会をはじめ、県内41市町村全議会と県議会で反対決議、配備反対県民大会を無視する形で普天間基地へ強行配備されました。それらの事案は、村民及び県民が安心安全な生活をする上で極めて大きな問題であり、また、沖繩経済を支える観光業やアジアのハブ的位置にある沖繩の経済にとって、大きな損失であると考えます。

昨年未の衆議院解散に伴う総選挙は、自民党・公明党の圧勝で再び両党の連立政権が誕生しました。新政権による「15ヶ月予算」予算編成方針は、平成24年度大型補正と平成25年度予算を合わせ、切れ目のない経済対策を実行するとされています。平成24年度補正予算については、13兆円規模で計上されており、地方公共団体に対しても、公共事業や経済対策のための臨時交付金が盛り込まれています。それに続く平成25年度予算については、財政健全化目標を踏まえ、編成される見通しです。

本村においては、大保ダムの本格運用に伴い、国有財産等所在市町村交付金が増額見込まれるものの、その他の税については、伸び悩んでいます。沖縄振興推進特別交付金（以下「一括交付金」）については、引き続き交付されることになっていきます。多種多様な行政需要に対応するためには、依然厳しい財政状況にあります。しかし、村民に直結する重要な事業は、積極的に取り組み、事業に優先順位をつけ、最大限の効果を出せるよう工夫していきます。

離が起こり、独自の進化が進んでいることや、国際的希少種の生息・生育地で多くの固有種が観られることなどが高く評価され、世界遺産本登録に向け、政府は暫定リスト記載を決めました。観光等において、大きな効果が期待され、これからの具体的な取り組みが求められています。

平成25年度予算について

国は東日本大震災からの復興、福島の再生を、引き続き最重要かつ最優先課題として全力で対応するとともに、「日本再生戦略」の実現により政策目標を達成し、デフレから脱却し日本経済再生を図ることが喫緊の課題としています。しかし、国の財政は厳しい状況にあり、中期財政フレーム（平成25年～平成27年度）に定めた財政規律（歳出の大枠71兆円）を堅持することが必要であるとしています。こうした中で重点分野に重点的な予算配分を行い、現下の課題に対応するためには従前にならぬ「府省の枠を超えた大胆な予算の組替えを行うこと」が必要不可欠である、という考えのもと平成25年度予算編

成基本方針が平成25年1月に閣議決定されました。

本村では、国の「平成25年度地方財政への対応」を見据えながら昨年同様ゼロベース予算を基本とし第四次総合計画及び過疎地域自立促進計画を念頭に、選択・優先づけの実施を基本とし、平成25年度重点事業を柱とした予算編成を行っております。

さらに24年度から実施されている一括交付金事業も引き続き実施していきます。

平成25年度一般会計予算の概要は、総額約29億7千7百万円で前年度25億5千8百万円に比べ4億1千9百万円増加しており、前年度比16.4%の伸びとなっています。

特別会計予算は総額約8億2千6百万円となっており、その内訳については、国民健康保険特別会計予算は総額約5億9千2百万円で前年度比0.9%増、簡易水道事業特別会計予算は総額約1億8千3百万円で対前年度比12.3%増、公共下水道事業特別会計予算総額約1千3百6拾万円対前年度比2.4%増、後期高齢者医療特別会計予算総額約3千7百4拾万円対前年度比マイナス0.2%となっています。

1. 重点施策について

子供たちは、近い将来の村を担う地域の宝であります。子どもの養育は、親の責任である事を踏まえつつ、その子供たちの健やかな成長を支援するため、医療費助成を義務教育終了まで延長することと学校給食への財的支援を重点施策に挙げ、取り組んでいきます。子ども

の医療費助成については、生涯の健康づくりの基礎となる子どもの疾病の早期発見と早期予防を促進し、子どもの健全な育成をめざし子ども医療費助成を義務教育終了まで延長して行きます。学校給食支援については、給食賄い材料費の県基準額との差額分を助成補填し、幼児・児童・生徒の健やかな成長に繋げて行くと共に保護者の負担軽減を図っていきます。

用計画 ②長寿と癒しの森整備計画 ③大宜味型体験滞在型交流プログラムの構築を重点的に推進する事業として設定してきました。

塩屋湾外海埋立地については、平成23年度沖縄北部地域活性化事業の導入により企業支援施設の整備が平成24年度への繰越事業として取り組んでいます。事業開始の遅れなどから平成25年度当初の完了見込みとなっています。完了後の入居企業も選定され、雇用や村経済の活性化へ大きく寄与するものと期待されます。工業の乏しい村において、村の貴重な資源活用した事業であり、村としても入居企業の支援を積極的に展開していきます。

2. 三大プロジェクトの取り組み

本村の将来像「健康長寿のいきいき輝く文化の村」を実現するため第四次総合基本構想で①塩屋湾外海水面埋立地利



また、平成24年度一括交付金を活用した結の浜公園整備事業により、村民海浜公園岸緑地の景観形成を含めた結の浜公園整備計画を進めてきました。引き続き、一括交付金や北部連携促進事業を活用し、村民海浜公園整備工事での遊具の整備やスポーツ拠点整備での体育館の整備等を進めて行きます。宅地分譲については、宣伝方法を工夫し分譲推進、早期住宅建築の促進に努めると共にアパート等の誘致に取り組みでいきます。

長寿と癒しの森整備計画は、第三次総合計画の「村民の森整備計画」から長年、構想として継続されてきましたが、しかし、現在これらの計画は進展していない状況にありました。大保ダム completionにより、早期の湖岸利活用や周辺整備が求められています。平成24年度一括交付金の活用により、ゾーニングや整備計画を村づくり検討委員会や内部検討委員会で審議を重ねてきました。平成25年度は、経緯を踏まえ、実施計画を作成し、可能なものから優先順位をつけ整備を進めていきます。

大宜味型体験滞在・交流プログラム構築については、近

年、長寿の秘訣を求めて国内外から多くの個人・団体が訪れているが、ボランティアの域で活用し、産業化に至っていない状況であったが、体験滞在・交流の受入窓口として平成22年にNPO法人「おおぎみまる」とツーリズム協会が設立され、高校生の修学旅行等の受入、ツーリズムのガイド、民泊事業等でボランティア依存から産業化へ徐々に広がっています。平成25年度は、大宜味村の豊かな自然、貴重な歴史・文化を伝えるエコツーリズムガイド育成等を実施していくと共に、受入事務局体制のあり方などを検討していきます。中長期的に大宜味型体験プログラム開発や所用の施設整備を促進していきます。



3. 行財政運営の基本施策

(1) 職員の資質の向上

厳しい財政状況と複雑多様化する行政サービスに対応するため、職員の資質の向上が必要であります。今年度は、国、県、広域圏への実務研修派遣を実施していきます。

(2) 行政改革の推進

地方分権の新たな時代に応えるために、「第四次大宜味村行政改革大綱」実施計画に基づき、推進していきます。

(3) 財政運営

依然自主財源が脆弱で財政的に非常に厳しい状況にあり、歳出における一般財源の削減を最大限に図っていきます。

歳入においては、自主財源の確保、中でも村税は最も重要なものであり公平な税業務に努め、ひきつづき歳入拡大に努めていきます。国民健康保険財政についても、収納率の向上に努めていきます。

限られた財源の中で住民の要望に応えるため、補助金等の歳入の伴わない歳出予算の計上はすべての事務事業の緊急性、優先度、行政効果、経済効果な

どの検討していきます。

(4) 旧診療所等の利用計画について

旧村立診療所跡地については、複数の団体から跡地利用についての依頼があります。それを踏まえ、村の総合計画を精査しながら跡地利用を検討して行きます。また、国頭地区行政事務組合大宜味分遣所については、建物の利活用を視野に入れ、用地を含めた検討をしていきます。

4. 豊かで住みよい村づくり

(1) 産業の振興

農家所得の減少による農村の活力低下、農家の高齢化と担い手不足による生産者の活力低下を喫緊の課題としてとらえ、農業の振興に取り組みしていきます。

対策としては、農家所得の向上と新規就農者の積極支援、農地集積による生産基盤の安定化、6次産業化事業などを推進していきます。

平成24年度は、3度の大型台風の影響でシークワーサーをはじめとした農作物に大きな

被害が出ました。今年度は樹勢の回復・維持のための支援を行い、また、栽培技術の普及により農家所得の維持・向上に努めていきます。

新規就農者の積極的支援については「人・農地プラン」の作成による青年就農者給付金を活用し今後の地域農業のリーダーとなる人材の定着を図っていきます。

平成20年度から行っている耕作放棄地対策事業についても積極的に関与を行い、耕作放棄地の解消と解消された農地の積極的利用を促進に取り組みしていきます。また、事業で展開している蕎麦（雑穀類）の栽培技術の確立および出口展開についても取り組んでいきます。

県のアグリチャレンジ6次産業化支援事業を活用し、製茶機を導入して村内での茶葉の加工による商品化を支援し、長寿のお茶のブランド化に取り組みます。

シークワーサーの振興は、産地振興協議会を育成強化し、予定生産量の把握、低木化や青切り果実生産等の技術向上による生産体制の強化を図るとともに、新商品開発や花・青切り加工・フルーツのブランド向上

に努め村内外への消費拡大につながる活動を展開していきます。

村特産品加工施設の運営につきましても、更なる商品開発と販路開拓の支援をしていきます。

カンキツグリーニング病対策については平成21年度から続いている県からの委託事業であるカンキツグリーニング病侵入警戒調査事業を引き続き継続し、村域での撲滅を目指します。

近年増加している有害鳥獣の対策としては、国の平成23、24年度予算を活用し、サトウキビをイノシシ被害から防ぐためフェンスを25km設置し、被害軽減に取り組んで参りました。引き続き25年度においても15kmの設置を行います。

農家の負担軽減を図るため、農業用廃プラスチック処分へ補助を行うとともに、農道等の整備を引き続き積極的に取り組んでいきます。

活力ある農村づくりのため国・県・その他関係機関と連携協力し「意欲ある頑張る農家」を積極的に支援し、元氣な農村づくりを勧めていきます。



(2) 林業の振興

林業振興については、県の計画である「やんばる型森林業推進事業計画」に基づき、近隣市町村と連携をとりながら、自然に配慮した森林業の取組を行います。

(3) 畜産の振興

畜産業の振興については、口蹄疫や鳥インフルエンザ等への防疫体制の強化を図り、経営の安定向上と周辺環境の改善に努めていきます。

(4) 水産業の振興

平成23年度から着手しております漁村地域整備交付金を活用し、防暑施設、突堤等の工事を行い、漁民の就労改善及び漁港の環境整備に努めていきます。

(5) 商工業の振興

中小企業の経営安定のために、商工会と綿密な関係を構築しながら支援をしていきます。

次に大宜味村活性化センター（道の駅）は、昨年度機能高度化で周辺の整備や建物の増改築等計画をしておりますが、3度の台風襲来により計画の見送りを余儀なくされました。今年度は現在の場所や移転を含め、多角的に調査を行い決定していきます。

また、本村は工芸品を製作する人々が数多くいます。村全体を工芸村とし観光の資源となりうるか検討していきます。

5. 健康ユイマールの村づくり

(1) 健康福祉の村づくりの推進

高齢化社会が進む本村において、子ども、高齢者、障がい者や村民誰もが安心して暮らし、健康で、互いに助け合い、支えあうユイマール社会の実現を目指していきます。戦後世代を中心にライフスタイルや生活の変化に伴い、健康管理の問題は、長寿の里大宜味が危惧される大きな課題であり、長寿健

康で元氣な村民を引き継いで行くため、特定検診の受診率向上や特定保健指導を積極的にを行います。



中高年の就労問題については、就労相談などの支援体制を整え、生き甲斐作りに繋げるよう取り組んで行きます。乳幼児から高齢者まで、村民みんなが健康づくりや福祉サービスを受けられるような長寿の里ウエルネスセンターの整備を積極的に推進していきます。

(2) 児童・母子父子福祉の充実

子どもがのびのびと育つよう、子育て支援、生活支援等の施策を推進し、保育の安心安全の確保と子供の個々の発達に応じた充実した保育の実施をおこなっていきます。

(3) 障がい者福祉の充実

障がいのある人が住み慣れた地域で安心して主体的に生活していくために、その基本的な生活を支える適切なサービスが必要であり、障がいのある人々が社会活動へ積極的に参加できるように、自立支援サービスを行っていきます。

(4) 高齢者福祉の充実

高齢者をとりまく社会環境はますます複雑化、困難化を深めております。人間としての尊厳を持ち、健康で安心して在宅で生活ができるよう、地域支援事業・介護予防事業等の施策を講じていきます。

6. 心豊かな文化の薫り高い村づくり

(1) 学校教育の振興

少子高齢化・情報化・国際化など、急激に社会情勢（構造）が変化し様々な制度が、今日的課題に対応できなくなっている状況にあります。

教育分野についても教育三法に代表される教育関連法案の改正等時代に対応した教育改革が進められています。



推進し、児童生徒や家庭のサポートも充実させていきます。その他、情報社会に対応しうる資質の教育を図るため学校教育ICT(情報通信技術)事業の導入による各学校へのデジタル黒板設置の整備をおこないます。

(3) 地域文化の振興

村内に現存する貴重な歴史民俗資料の保存整備・おこぎみの昔話等の絵本化を一括交付金の活用で文化財活用事業により整備し文化資源を活かした地域文化を推進していきます。

(2) 生涯学習の振興

一括交付金を活用した生涯学習支援事業で生涯学習支援員を配置し各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会を「わんぱく体験団」の事業との連携により、心豊かでたくましい児童生徒の育成できる事業に取り組んでいきます。

(4) 村史編纂について

新村史編纂基本計画に基づき、「大宜味の戦争証言集」の25年度発行に向けて編集作業を進めてまいります。引き続き「人と自然」、「移民・出稼ぎ」、「民俗・ことば」、「写真集」、「通史」等の発行計画に基づき資料収集をしていきます。

(2) 消防・防災の推進

一昨年の3・11東日本大震災の教訓を踏まえ、防災計画、災害対処の見直しを実施していきます。「自分たちの地域は自分たちで守る」という認識の下、地域住民が主体的に防災活動を行うため、自主防災組織の育成支援をしていきます。又、防災設備整備の検討と、正確な情報を迅速に伝達するため、防災無線を整備していきます。

(3) 情報通信の整備

情報通信の高速化とインターネットの民間普及を推進していきます。

おわりに

以上、平成25年度の村政運営に当たった私の基本的な姿勢と主要施策の一端を申し述べさせて頂きました。全国に先駆けて地域主権の先行モデル構築が期待される一括交付金が2年目を迎えました。また、北部地域が連携し、課題解決を図ることができると、北都連携促進特別振興事業と併せ、これまで以上に創意工夫が求められています。私は、村民並びに議員皆様のご協力を得て、村民が「健康長寿のいきいき輝く文化の村」を享受できるよう誠心誠意頑張る所存であります。なお、今、述べさせて頂きました主要施策について、一覧として掲載していますので、ご覧下さい。

平成25年3月7日

大宜味村長 島袋 義久

少子化の進行に伴い、児童生徒の教育環境の整備を図る観点から、全国及び本県においても、学校規模の適正化に向けた様々な取組が展開されている中、本村においては、大宜味村第四次総合計画後期基本計画で検討課題とされている小学校の統廃合及び中学校の移転については、大宜味村立学校適正化総合基本計画を基に平成28年度の開校を目標とする事業計画を推進していきます。

また、一括交付金を活用した学校支援員配置事業を展開し児童生徒の基礎学力の向上に努めていきます。一方、不登校等の問題に対し地域支援員配置事業による心の教育を



(1) インフラの整備

7. 安心・安全な村づくり

昨年の連続的な台風上陸や豪雨等災害の経験を踏まえ道路・河川・上下水道等の風水害・土砂災害対策に資する事前防災や減災対策を推進する必要があります。長寿命化計画に基づき道路橋の予防的な修繕及び架替えを年次毎に計画しておりますが、本年度におい



平成25年度主要事業

	事業名称	新規 継続	事業 期間	全体事業概要(目的)	h25年度主な実施内容	補助名	担当課名	施策名
1	結の浜公園整備事業	継続	25~28	結の浜全体を公園として、緑地等の公園整備を行う。	北側測量設計業務・工事	一括交付金	企画観光課	三大重点プロジェクト
2	スポーツ交流拠点整備事業	新規	25~27	スポーツ拠点施設整備	体育館実施設計	北部連携促進事業	企画観光課	三大重点プロジェクト
3	長寿と癒しの森整備事業	継続	25~28	具体的な実施計画を作成し、地域特有の自然等を活かし、ツーリズム繋げる環境整備を図る。	実施設計	一括交付金	企画観光課	三大重点プロジェクト
4	観光情報発信ホームページ制作委託事業	継続	25~28	本村らしさが伝わり、幾度も訪れたいくなるような魅力的な情報発信ができるホームページを目指す。	ホームページ作成	一括交付金	企画観光課	健康ユイマールのむらづくり
5	エコツーリズム人材育成事業	継続	25~28	持続可能な観光地を目指し、長期的かつ総合的な人材育成を行う。	ガイドの育成、認定制度の整備 地域資源保全・活用体制整備及びそれらを実践する部会の設立・運営	一括交付金	企画観光課	三大重点プロジェクト 健康ユイマールのむらづくり
6	観光周遊ルート形成整備事業	継続	25~28	やんばる地域の特徴を活かした観光周遊ルート形成計画を作成する	大保ダム湖面進入棧橋設置 販売促進施設(活性化センター)整備	一括交付金	企画観光課 産業振興課	健康ユイマールのむらづくり 豊かで住みよい村づくり
7	石灰岩の山資源調査・活用促進事業	継続	25~28	鍾乳洞・湧き水等を調査し、これらを活用した村づくりに取り組む。	活用できる鍾乳洞・湧き水を具体化し活用方法を検討する。	一括交付金	企画観光課	健康ユイマールのむらづくり
8	魅力的な自然環境づくり事業	新規	25~28	自然豊かな景観の保全・向上を図る。	不法投棄パトロール 海岸漂着物・廃棄物の回収処理の実施	一括交付金	建設環境課	安心・安全な村づくり
9	水道水安定供給対策事業	新規	25~28	よりよい美味しい水を安定供給を確保する。	濾過地の砂等の入れ替え	一括交付金	建設環境課	安心・安全な村づくり
10	生涯学習支援事業	新規	25~28	村内の現存する貴重な歴史民俗資料の保存整備	所蔵文化財修復保存	一括交付金	教育課	心豊かな文化の薫り高い村づくり
11	大宜味村学習支援事業	新規	25~28	児童生徒の基礎学力の定着・不登校やいじめ等で支援を要する児童生徒の支援	学習支援員の配置 不登校等のサポート支援員配置 デジタル黒板の整備	一括交付金	教育課	心豊かな文化の薫り高い村づくり
12	社会資本整備総合交付金事業	新規 継続		地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化等を図ることを目的とする。	・村道海梁江洲原線道路改良工事 ・村道根路銘上原線道路改良工事 ・大宜味大兼久線橋梁架替工事 等	社会資本整備総合交付金	建設環境課	安心・安全な村づくり
13	道路ストック総点検費用の交付金事業	新規		老朽化により危険が生じているトンネル・橋梁等をはじめ河川、道路等の社会インフラの総点検を速やかに実施し、緊急的な補修に繋げることを目的とする。	道路ストックの総点検(村管理道路の点検)	道路ストック総点検費用の交付金	建設環境課	安心・安全な村づくり
14	塩屋漁港漁村地域整備交付金事業	継続	23~28	安全な漁業活動の確保と就労環境の整備	防暑施設、突堤、砂留堤工事	漁村地域整備交付金	産業振興課	豊かで住みよい村づくり
15	農業体質強化基盤整備促進事業	継続	24~25	農業基盤整備	農道整備工事 取水施設改良工事	優良農地確保・有効利用対策事業費補助金	産業振興課	豊かで住みよい村づくり
16	農業用廃プラスチック適正処理事業	新規	25~	農業用廃プラスチック適正処理の推進	(仮称)大宜味村農業用廃プラスチック適正処理対策協議会への補助	産業廃棄物協議会補助金	産業振興課	豊かで住みよい村づくり
17	子ども医療費助成期間延長	新規	25~	子どもの健全な育成を目指す。	義務教育終了まで助成する。	単費	住民福祉課	健康ユイマールの村づくり
18	学校給食賄い材料支援事業	新規	25~	子どもの健全な発育と健康管理のための栄養バランスのとれた安心・安全な給食づくり。	県の基準額との差額分を補填助成する。	単費	教育課	心豊かな文化の薫り高い村づくり
19	鳥獣被害対策推進事業	継続	23~	鳥獣被害対策の担い手確保と共に、農作物被害を防止し生産意欲向上へと繋げると同時に、地域住民の生活環境の改善を図り、被害対策の実行性を一層高めることを目的とする。	個体数調整 被害防除	鳥獣被害防止総合対策交付金	産業振興課	豊かで住みよい村づくり

農家の声を施策に農業委員会が建議書を提出



島袋村長に建議書を手渡す農業委員会の平良晋委員

村農業委員会(照屋まり会長)は1月29日、農家の意向を農業施策に反映させるため、農業者との意見交換会を開きました。鳥獣害対策の強化や6次産業化、観光とのリンクなど農家から出された要望をまとめ、農業委員会では3月13日、島袋義久村長に建議書を提出しました。

シークワサー振興室を産業振興課に統合



村行政改革推進委員会の宮城成和会長から答申を受ける島袋義久村長

シークワサー振興室は、平成25年4月1日から産業振興課に統合し業務を行います。

引続きシークワサーを村の活性化及び振興を担う戦略的作物として推進してまいります。

企業支援賃貸工場にオオバの入居が決定

結の浜で建設が進む企業支援賃貸工場の1室に総合建設コンサルタント業の株式会社オオバ(大場明憲社長)の入居が決定しました。同社は、工場をLED光源を活用した植物工場として活用し、リーフレタス換算で1日あたり最大2,400株を生産、県内のスーパーなどで販売する予定です。雇用者数は最大で20人を計画。

3月14日には、同社の大場社長らが村役場を訪れ、島袋義久村長を表敬訪問しました。大場社長は「安心でおいしい大宜味の水を使って野菜を作るので、大宜味村を全面に出して売っていききたい」と話しました。

企業支援賃貸工場は今回入居が決定した同社と株式会社ブルーオーシャンズ、株式会社沖縄村上農園の3社で4室すべての入居が決定、工場も早ければ6月頃に完成する予定です。



入居決定通知書を手し、島袋村長と握手を交わす大場明憲社長

大宜味村産シークワサーを搾った「麒麟氷結」が新発売!

麒麟ビール株式会社(磯崎功典社長)は4月3日から、大宜味村産のシークワサーを搾った「麒麟氷結ストロング沖縄産シークワサー」を期間限定で発売します。350ml缶、500ml缶合わせて67万ケース(24本入)を生産し、全国のスーパーや飲食店などで販売予定。今回の生産分については、全て本村のシークワサー果汁が使われており、村特産品加工施設(指定管理者:石垣島サプライ)を通して供給されます。

商品の発売を前にした3月13日、同社の松浦泰彦沖縄支社長らが村役場を訪れ、島袋義久村長に発売の報告をしました。松浦さんは「商品を通してシークワサーをPRするだけでなく、村行政ともタイアップ企画ができないか模索していきたい」と話しました。



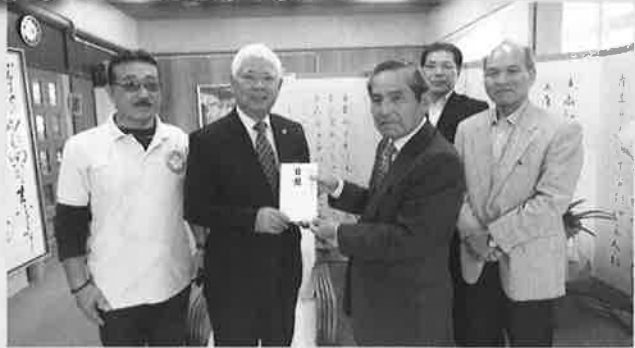
沖縄支社の永元禎人営業部長(写真左)と松浦泰彦支社長(写真右)とともに本村のシークワサーを搾った「氷結」をPRする島袋村長

顕彰碑再建支援の輪広がる



久高副市長(写真上段左から4番目)と那覇市議の5名

大宜味村顕彰碑再建委員会(共同代表:島袋義久村長・金城勇村議会議長)の山城清臣副村長ら4名は3月25日、那覇市役所新庁舎を訪れ那覇市の久高将光副市長らを訪問しました。訪問したのは、久高副市長と市議の5名。全員が大宜味村出身者の2世や3世にあたり、それぞれ個別に寄付を頂きました。久高副市長は「宮城新昌さんは沖縄県にとっても偉大な人であり、我々も取り組みに協力したい。宮城県復興の活力になるように頑張りたい」と激励がありました。



島袋義久村長に目録を贈る仲本一夫理事長

東日本大震災の津波で倒壊した村出身の宮城新昌さんの顕彰碑を再建する取り組みを支援するため、社会福祉法人一心福祉会の仲本一夫理事長らは3月11日、村役場を訪れ、再建委員会会長の島袋義久村長に目録を贈りました。同福祉会の仲本理事長は「村の大先輩の偉業を後世まで残す取り組みを、我々としても協力したい」と話しました。



赤土ザウルスを背に記念撮影する参加者ら

農地保全の必要性を呼びかけ、地域全体で取り組む気運を盛り上げようと「赤土等流出防止対策推進イベント」(主催:村地域耕作放棄地協議会)が3月6日、結の浜で開かれ、行政関係者や農家、漁業関係者ら約80人が参加しました。

赤土流出を防げ結の浜に赤土ザウルス出現

イベントでは、アイモコさんが赤土流出防止を訴えるために書き下ろした曲「赤いなみだが濁くまで」の初披露ライブや住友JINさんが流木や廃材を使って制作したイメージシンボル「赤土ザウルス」の展示テープカットも行われました。

イベントでは、アイモコさんが赤土流出防止を訴えるために書き下ろした曲「赤いなみだが濁くまで」の初披露ライブや住友JINさんが流木や廃材を使って制作したイメージシンボル「赤土ザウルス」の展示テープカットも行われました。

赤土ザウルスは、「赤土防ぎ隊」の隊長というコンセプトで制

作。骨組みの胴体部分には大宜味中学校の生徒が海で拾った浮きや貝殻を使って制作されたウニやニモが飾られ、赤土が流れると犠牲になってしまう生き物が表現されています。

同協議会会長の山城清臣副村長は「赤土は畑にとっては必要だが、流れてしまうと海や川を汚してしまう。農地の肥えた赤土を守り、畑から流さない対策を地域全体で取り組む必要がある」と話しました。



講演会には多くの村民が参加

災害時(緊急時)に地域で支え合う体制づくり

村では昨年、災害などの緊急時に備え、65歳以上の高齢者、障害を持っている人などを対象に要援護者避難支援台帳を作成しました。それを基に今年度は災害時(緊急時)に要援護者を地域で支える体制づくりに取り組んでいます。

東日本大震災からちょうど2年目となった3月11日、村で最も早く自主防災会を立ち上げ、精力的に地域で防災活動に取り組む根路銘区自主防災会の宮城健隆会長と大城邦彦副会長を迎えて、おおぎみ道の駅2階ホールで講演会が行われました。

同区では、平成23年6月に自主防災会を発足。「自分の命・地域は自分たちで守ろうと、組織の任務分担や防災計画などを整備。また、各災害に対応した避難訓練にも率先して取り組んでいます。講演では、同区が訓練を繰り返してきたことで、区民が台風時に自主避難するなど危機管理のレベルが上がってきたことが紹介されました。宮城会長は、組織や理論よりも「緊急時の避難場所を確認し、まずは訓練などの行動に移すことが大事」と強調しました。

お知らせ

暮らしに役立つ
情報コーナー



大宜味村立歯科診療所

業務受託者の 変更について



三丸博之医師

村立歯科診療所の業務につきまして、医療法人羽地会との業務委託契約期間満了に伴い、平成25年度の業務受託者を本村在住の三丸博之医師に決定いたしました。

なお、診療終了時間が午後7時(土曜日と祝日は午後6時)に変更になります。診療日(月・火・水・金・土・祝日)と診療開始時間(午前10時)はこれまで同様です。これからも村立歯科診療所をよろしく願っています。
お問い合わせ先 住民福祉課 0980-44-3003

こども医療費 助成制度が 変わります

平成25年4月1日より、通院に対する医療費助成が義務教育終時まで延長されました。詳しくは、住民福祉課までお問い合わせください。



住民福祉課
TEL 0980-44-3003

行政相談員に島袋一道さんを委嘱



山城清安さん



島袋一道さん

意見・要望を直接受け付け、その解決・実現に努めています。

相談事がありましたら、お気軽にご相談下さい。
お問い合わせ先
沖繩行政評価事務所 TEL098-866-0148

平成25年3月31日で山城清安さんの行政相談員の任期が終わり、平成25年4月1日から新たな行政相談員として島袋一道さんが委嘱されました。

行政相談員は、国民が毎日の暮らしの中で感じている国の役所等の仕事について、苦情や

法律顧問弁護士に 平良頼夫 先生(大兼久出身)

平成25年4月より、平良頼夫先生に大宜味村法律顧問弁護士を委託しました。偶数月(※第4金曜日)に大宜味村で法律・行政相談を行いますので、相談ごとがありましたら、お気軽に相談所をご利用下さい。
※事情により日程が変わる場合があります。
お問い合わせ先 総務課 0980-44-3001

障害者虐待を 防ぎましょう!

知っていますか?「障害者虐待防止法」

☆平成24年10月に 「障害者虐待防止法」が施行!!

障害者の虐待の予防と早期発見、及び養護者への支援を講じるための「障害者虐待防止法」が平成24年10月1日から施行されました。

「大宜味村障害者虐待防止センター」に
ご相談ください!

障害者の虐待にかかわる通報や届け出、支援などの相談は、大宜味村障害者虐待防止センターまでお寄せください。障害者の虐待をなくすために、あなたのご協力をお願いいたします。



大宜味村障害者虐待防止センター
(大宜味村住民福祉課内)
電話 0980-44-3003
FAX 0980-44-3139

平成25年4月から 難病等の方々が障害福祉サービス等の 対象となります

身体 精神
障害範囲
知的 難病
追加

平成25年4月に施行される障害者総合支援法では、障害者の範囲に難病等の方々が加わります。対象となる方々は、身体障害者手帳の所持の有無に関わらず、必要と認められた障害福祉サービス等※の受給が可能となります。
※障害児・者については、障害福祉サービス、相談支援、補装具及び地域生活支援事業。
障害児については、障害児通所支援及び障害児入所支援。

お問い合わせ 大宜味村役場
住民福祉課 TEL0980-44-3003

三村の魅力を紹介する「るるぶやんばる」が発刊



るるぶやんばるをPRする
(左から)芸人のよつちゃん、
島袋義久村長、宮城久和国頭村長、
伊集盛久東村長、クイチちゃん

全国各地の旅行情報を案内するガイドブック「るるぶ」(JTBパブリッシング)の大宜味・国頭・東の三村版「るるぶやんばるー沖縄北部」が制作され、2月25日(県内は27日)から販売が始まっています。

国頭村が事業主体となり、三村で情報交換しながら連携して制作。飲食店や特産品、緑豊かなやんばるの自然を活かしたネイチャー体験など全100ページに三村の魅力が紹介され、初版で13,000部を発行し、全国の書店や県内のコンビニなどで流通しています。

3月9日、10日には、発刊を記念した記者会見と記念イベントが那覇市のジユンク堂で開かれました。

村の人口

2月末現在

男 1,735人(-8)
女 1,641人(-1)
計 3,376人(-9)

世帯数 1,675世帯数(-5)
出生 3人 転入 8人
死亡 6人 転出 14人
※注()内数は対前月比

4月頃に警戒してほしい カンキツ類の病害虫対策

レモントビハムシ

ムシは新芽の発生とともに出現し、特に2〜4月の発生が著しく、成虫・幼虫とも新葉や比較的柔らかい葉を激しく食害します。ハモグリガや、アブラムシなどの害虫も同様に新芽を食害します。



レモントビハムシによる被害

は、そうか病があります。果実に感染すると外観品質が悪くなります。



そうか病の被害果実

対策としては殺菌剤と殺虫剤の散布による防除があります。

もうひとつ重要な害虫としてカンキツグリーニング病を媒介するミカンキジラミも新芽で増殖しますので防除による対策も必要になります。

また、開花後の樹勢維持のためにも肥料も施すようにしましょう。

詳しい話は産業振興課まで

(0980-44-3232)



4月

April May
4月1日~5月11日

大宜味村カレンダー

1月	◆区長会
2火	
3水	
4木	
5金	◆春の交通安全出発式 ◆海外短期留学参加者募集 (5/2まで) ◆いぎみていぐま展 (~7日)
6土	
7日	
8月	◆村内小中学校新任式・始業式 ◆大宜味中学校入学式
9火	◆村内小学校入学式
10水	◆幼稚園入園式
11木	◆乳幼児健診
12金	
13土	
14日	
15月	
16火	◆海外短期留学説明会
17水	
18木	
19金	◆鯉のぼり掲揚式
20土	
21日	◆第35回塩屋湾一周トリムマラソン大会 家庭の日

22月	
23火	
24水	◆全国学力・学習状況調査
25木	
26金	◆幼稚園春の遠足
27土	
28日	
29月	昭和の日
30火	
5月	May
1水	◆区長会 ◆家庭学習強化期間(~6月)
2木	◆村内小学校春の遠足 ◆海外短期留学募集締切
3金	憲法記念日
4土	みどりの日
5日	こどもの日
6月	振替休日
7火	
8水	
9木	
10金	◆ESLキャンプ募集(6/28) ◆春の遠足(塩屋保育所)
11土	◆海外短期留学選考試験

村内あれこれ



花の香りに包まれて 押川区で シークワサー花祭り開催

第3回押川シークワサー花祭り(主催:花祭り実行委員会)が3月16日、17日の両日、区公民館を主会場に開かれました。会場周辺はシークワサーの花の甘い香りに包まれ、満開に咲いた白い花が見に訪れた人たちを楽しませました。

同会の照屋章会長は「今年は花の満開の時期に合わせて開催できた。訪れた人は満開に咲いた花の香りと森林浴を楽しんでもらえたと思う」と笑顔を見せました。



饒波区で銃弾回収 不発弾騒動も

饒波区の饒波川付近で带状になった銃弾360発と金属製の箱に入った空砲と空薬きょう667発の計1027発が見つかり、3月6日に名護署が回収しました。2月2日に川の中の生き物を調査していた辺土名高校生が発見し、同署に通報しました。

また、3月7日には川の中に不発弾の弾頭らしきものが川に埋まっていたため、自衛隊による処理作業も行われました。幸いにも不発弾と思われたものは、作業中に鉄ではなく、木であることが判明し、関係者らは胸をなで下ろしました。



運動を通して健康に 大保ダムでノルディックウォーキング

市民の運動する気運を盛り上げようと軽スポーツ講習会(主催:教育委員会)が3月10日と17日の両日、大保ダムで開かれました。講習会には2日間で40人の参加があり、参加者らは講師からボールを使ったストレッチ法や歩き方などを学んだあと、大保ダムの良好な景観と心地よい風を受けながら約4kmを1時間かけて歩きました。

キラリ おおぎみ



(写真左から)宮城久子さん、松本安子さん、山城初子さん

松本安子さん(農山漁村生活研究会)

シークワサーの魅力を含め込んだ歌詞と三味線とキーボードが奏でる、どこか懐かしさを感じさせるメロディーの「おおぎみシークワサー音頭」が昨年、完成した。

作詞・作曲をしたのは、村農山漁村生活研究会の松本安子さん(田港区)。松本さんは自身もシークワサー農家を営んでおり、シークワサーとの関わりも深い。同研究会では、シークワサーを活用した料理やデザートを考案しPR活動を行っているが、今回新たに誕生した曲で各イベントなどを通して売り込んでいく。

振り付けは同研究会の会員で保育所職員の与那嶺照子さんが担当。与那嶺さんは子どもたちと一緒に、考えた動きを曲に乗せて踊り、反応を見ながら親しみやすい振り付けに仕上げたという。かつて大宜味村では芭蕉布の洗濯にシークワサーを使っていたこともあり、その場面が思い浮かぶように洗濯する動きも取り入れ、大宜味らしさを演出した。

歌詞には「みんなで創ろう 世果報村(ゆがふむら) 笑顔広がる 故郷の わした大宜味シークワサー」というフレーズがある。そこにはシークワサーをPRするため、みんなで知恵を出し合い、協力して笑顔溢れる村をつくりたいという松本さんの思いが詰まっている。



通常の5倍の大きさ約15kgの巨大大根

田港区の手登根恵貴さんの畑から3月上旬、長さ70cm、重さ15kgの巨大な大根が収穫されました。大根の通常のサイズは約40cm、重さは3kg程度なので、長さは約1.8倍、重さは5倍にもなります。通常、大根は80~90日で収穫しますが、今年は県内・九州が豊作の年で値段がつかないため収穫できず、この大根は130日間、土の中にあっただけです。大根はある日数が経過すると花を付け、それ以上大きくならないのですが、手登根さんが畑を丁寧に管理しているため、大根が成長し続けたといいます。